

二〇二二年度（令和三年度）入学宣誓式 式辞

新入生の皆さん ご入学おめでとうございます。ようこそ山陽学園においでくださいました。先ず本学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げ、歓迎をいたします。

今日から皆さんは、山陽学園短期大学・山陽学園大学・大学の助産学専攻科そして大学院の学生として、いよいよ新しい生活が始まります。大きな期待を胸に入學された事と思います。これまで、皆さんを全面的にサポートしてこられたご家族の皆様のお慶びも、また、この式典に列席できない口惜しさも、その胸中をお察しいたすところであります。感染防止のため、入学生のための式典の挙行とさせていただきましたこと、まずは、ご理解ご協力に心より感謝申し上げます。

皆さんは、この一年余りをコロナ禍のなか、様々な制約を受けながら生活を送ってこられた事と思います。そして、今後もおその状況が続きますが、短期大学・大学の皆さんは、大学受験という人生の一大事が、まさかこのような時に当たるとは、誰ひとり高校入学時には考えなかつたと思います。さらに、皆さんの大半は、大きな入試改革の流れのなかで、翻弄された学年でもありました。そう思いますと私は皆さんに対して特別の想いが湧いております。

考えてみますと、人は皆「時代の子」といえましよう。それぞれの生まれ育った時代のなかで生きざるを得ませんし、その時代の年月のなかにある文化や歴史の影響を大きく受けることは避けられません。オランダの教育学者M・J・ランゲフェルドは、「人間は、文化の一過程のなかに放り込まれている」と表現し、さらに「人間は、文化によって規定される存在」

であると語っています。例え嫌だと思っても、入試改革の流れのなかで進級することを避けることはできなかつたでしょうし、特效薬がないCOVID-19という感染症が蔓延している現在のこの時代から逃れることはできないのです。

だからといって、時代の流れのなかで、ただただ流されていくという生き方を、私たち人間はしないのです。「よりよく生きる」ことを決して諦めないのです。それは、世界中の人たちが、ワクチン開発や特效薬の開発に取り組みつつ、科学的に実証しながら感染防止対策を考え出し、実施しているという事実からもわかることです。私たち人間は、確かにランゲフェルドがいうように「文化によって規定される存在」であり、その時代ならではの様々な事象に規定され、試練にも遭遇します。けれども、遭遇してしまった数々の試練から抜け出すために、どうすればよいのかと「考える」のが人間であります。ホモ・サピエンスという名称にふさわしい、「叡智」*sapientia*（ラテン語）サピエンティアをもって、問題解決に取り組み、自分たちの生き方・在り方を切り開いてゆく力を持っているのです。しかし、それははじめから既にそれぞれの人が持っているのではなく、たゆまぬトレーニングによって研ぎ出され、生み出されてゆくのです。私は、大学は、この「叡智」サピエンティアを培う場所でなければならず、と思っています。言い換えると、この「叡智」を皆さんの中に作り出さなければならぬと考えています。問題は、その叡智なるものはどのように生み出すことができるのかということなのです。それは、「真の学び」にあると考えます。

その、「真の学び」は、獲得した知識や技能を、*unlearn* アンラーンしてゆくことだと思えます。英語のアンラーンは、辞書には「学んだことを忘

れる」とか「学んだことを念頭から除く」と書かれています。それは、単に外面的な意味を理解するというのではなく、言葉の内側に込められている深い意味を読み取り、それを自分の内面に蘇らせ、定着させるということを指します。誰かの解釈をそのまま覚え込むというのではなく、自分の心でまずは受け止めて、「一体どうということだろうか」「ほんとうにそうだろうか」と自分自身の内側で考えることです。日常的に反復される生活の中で、「当たり前とされてきた常套的概念や習慣と化した事象」に対して、たえず「新鮮で闊達な流れを注ぎかける」こと、「なぜそういえるのか」「どういう意味なのだろうか」とたえず疑問を持ち、自らに問いかけることが、「叡智」を作り出す契機になると私は考えます。そのためには、講義や演習などで、先生方が示される専門的知識や技能をまずは知り、その上でそれらを unlearn アンラーンすることが重要なのです。

それゆえ、自分の理解や解釈を頭なかでまとめ、それを他者にわかるように説明するために論理を組み立て、そして実際に表現し語ることが、必要となります。つまり異なる考えを持つ他者と出会い、交わり、語り合うことが、是非とも必要なのです。そのためにも、皆さんには、ここ平井のキャンパスに実際に通っていただきたいのです。私は、多人数の授業科目は、やむを得ずオンラインも導入しますが、基本的に対面授業で行う方針を出しています。もちろん、新型コロナの感染状況によっては、新たな判断をせざるを得ない時が出てくるかもしれません。しかし、先にも述べましたように、大学において「教授陣や先輩、また年齢の近い学生同士の語り合い」の場としての演習や実験実習、サークルやボランティアといった人間的交わりの場が、真の学びのためにも、人間形成のためにも必要不可欠であると考えています。

但し、明日から始まるオリエンテーションでは、感染拡大に備えて、本学のオンラインツールをすぐに使えるように学んでいただきます。また、皆さんの「いのち」と「学び」を守るため、本学独自の感染防止のルールについても全員にしっかりと学んで頂きます。

さて、皆さんにとって、高等教育機関への入学は、大きな「節目」であります。人は節目を通して、節目をきっかけとして成長してゆきます。どうか本学で真の「叡智」を身につけて、山陽学園が一三五年の歴史のなかで継承してきた教育理念「愛と奉仕」の深い意味を自ら考えて頂きたいと思います。そして、山陽学園の教育の基礎を築かれた「愛と奉仕」の実践者 上代淑先生が常々訴えかけられた「向上」ラテン語で *excelsior* エクセルシオール 英語でエクセルシア「向上」という言葉を是非とも心に刻んで頂きたいと思います。専門的学びと同時に継承された人間教育のもと、これまでのご自分をより一層高めて頂きたいと願っています。皆さんが持つておられる「潜在能力」「可能性」を是非とも本学で引き出し、卒業後は、「人のため、社会のため、地域のため」に、それぞれの学びを生かせるよう、本学での学生生活を充実させてくださいますようお願いいたします。

最後にもう一度申し上げます。ご入学おめでとうございます。本学での学生生活が、「よき学びの時・よき交わりの場」となりますよう、心よりお祈りし、式辞とさせていただきます。

二〇二二年四月一日

山陽学園大学・山陽学園短期大学

学長 齊藤育子